

わたしたちの奄美、
わたしたちで守ろう。

Let's protect Amami's native species by ourselves.

》 外来種から鹿児島県の生物多様性を守るために

鹿児島県は南北 600km にも及ぶ県土や 3 つの気候帯を有しています。また、渡瀬線を挟んだ 2 つの生物地理区に属しており、鹿児島県の多くの島々には、固有種、希少種が息息・生育し、独特な生態系が存在します。このため、動植物が持ち込まれることで、生態系に影響を及ぼす侵略的外来種となる場合があります。

世界自然遺産登録を目指す奄美大島や徳之島のある奄美群島でも、外来種が野生化し定着することで、生態系への被害やそのおそれが生じています。

これらのことを十分に理解し、安易に島へ動植物を持ち込むことのないようにしましょう。

外来種被害予防3原則

入れない

悪影響を及ぼすおそれのある
外来種を自然分布域から
非分布域へ「入れない」。



捨てない

飼養・栽培している
外来種を適切に管理し、
「捨てない」。



拡げない

既に野外にいる外来種を
他地域に「拡げない」。



緊急防除種・特定外来生物 フライマシクワズ

緊急対策外来種 アフリカマイマイ

》 外来種は悪者なの？

外来種は、意図的又は非意図的に自然分布域外に持ち込まれた生物です。被害を受ける在来種同様、生態系や人の生活環境への被害を防止するために防除される侵略的外来種もまた「被害者」です。そのことを理解し、自らが新たな外来種問題の原因者とならないよう十分に気をつけましょう。

本県の外来種の詳しい情報については！ [鹿児島県 外来種](#) [検索](#)

鹿児島県の外来種の詳しい情報については、鹿児島県のホームページをご覧ください。

URL <http://www.pref.kagoshima.jp/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/index.html>



奄美群島にお住まいの方向け アフリカマイマイ 防除マニュアル

➔ アフリカマイマイは鹿児島県に大きな影響を及ぼしており、緊急に防除対策が必要な種とする「緊急防除種」として選定されています。



アフリカマイマイってこんな生き物

アフリカマイマイ

学名：Achatina fulica

▶ 東アフリカのモザンビーク付近のサバンナ地帯原産
 環境省カテゴリー：重点対策外来種
 鹿児島県カテゴリー：緊急防除種

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
活動												
繁殖												
越冬												
拾い取り												

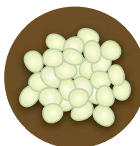
形態 殻高15cm以上に達する世界最大級のカタツムリです。殻色は普通赤褐色で縦に黄色の縞模様が入りますが、環境により色彩変異があります。



殻高

生態

食性は雑食性で、落ち葉や生葉、動物の死骸、菌類などを食べます。基本的に夜行性で昼間は草地や林縁部などの土中に潜んでおり、夜になるとエサを求めて移動します。原産地アフリカの環境に適合しているため乾燥耐性が極めて強いです。



卵

アフリカマイマイの卵
 直径約4mm(実物大)

(実物大)

繁殖 非常に繁殖力が高く、気温20℃以上では直径4mmほどの卵を約10日間周期で100～1000個産卵します。雌雄同体かつ卵生であり、2匹が出会うと交尾した後にその双方が産卵します。

アフリカマイマイによる影響

農作物への被害として、野菜類への食害があります。また、絶滅危惧種の植物への食害や在来の陸産貝類との競合もあり、陸産貝類が減少することがあります。人への影響として、寄生虫(広東住血線虫)が人間に寄生した場合、好酸球性髄膜炎を引き起こし、場合によっては死に至ります。



交尾中のアフリカマイマイ

アフリカマイマイの防除方法

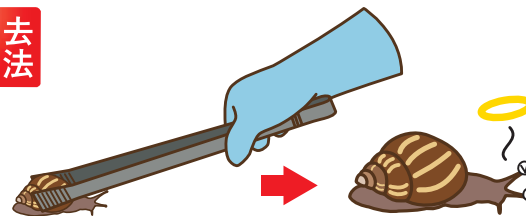
ここを
チェック!

主な生息地 畑地に隣接した草むらや林縁の藪

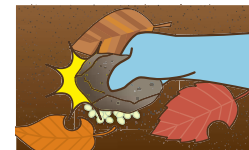
拾い取り

時期 ● 活動が活発になる春～冬前

除去方法



見つけ次第、捕まえて捕殺する

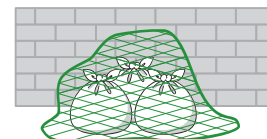


卵は見つけたら潰す

廃棄方法



捕殺後、
 穴を掘って埋める
 または



燃えるゴミにだす

※詳しくは各自自治体のゴミの収集・分別ルールをご確認ください。

アフリカマイマイとその卵は
素手で触らないこと!

ゴム手袋や軍手、ゴミ拾い用トングなどを使用しましょう

触ってしまったらすぐに手をよく洗いましょう



さわらないで

アフリカマイマイなどを中間宿主とする寄生虫(広東住血線虫)は、人間に寄生した場合、好酸球性髄膜炎を引き起こす危険があり、場合によっては死に至ります。沖縄県では2000年(平成12年)に死者が出ています。身体に触れたり、這った跡に触れたりしてもこの寄生虫に寄生される危険がありますので直接触らないように注意してください。

根絶までの流れ

翌年以降は、活動が活発になる春季に生息状況の確認を行いましょう。生息が確認された場合は再度拾い取りを行い、駆除しましょう。卵が確認された場合は、その場で潰してください。